

公益社団法人 私立大学情報教育協会
サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成23年度 第1回生物学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時 平成23年4月23日(土) 10:00~12:00
II. 場所 私立大学情報教育協会事務局
III. 出席者 伊藤委員、佐野委員 (事務局 井端、森下、平田)

IV. 検討事項

前年度に引きつづき、学士力の実現に求められる授業改善モデルの中間まとめを作成するため、以下の通り検討した。

授業モデル案

(1) 到達目標1について

2-2 授業計画及びICTを用いた授業シナリオ

- ① 授業計画とシナリオを分離させる。
- ② 冒頭に授業計画は、基礎的な力を大学として学生に身に付けるために、過日に担当委員提示のカラー刷りの図4枚目(生物学と他分野との関係)をイメージとして、生物を学ぶことについての他領域、自己、社会との関連づけを学べるような仕組みとして、大学のカリキュラムと関連させることの必要を謳っておく。
 - ・あらゆる学問の基礎となるので、関連づけの重要性を述べておく。
 - ・その上で、1. 生物とは~4遺伝子についての内容に続くようにする。
 - ・初年次で基礎で広がり教え、各詳細は2年次以降で教えるようにする。
 - ・人中心ではなく、自然との共存を教えることが重要。バランス感覚が必要になるが、そのためには判断できる基礎知識がなくてはならない。
- ③ 学びの振り返りをネットで補完する仕組みを作ることを追加する。
 - ・大学連携のクラウドの中で生物分野の教員のいる拠点校で、他分野との関連性を教える。
- ④ 授業シナリオは、1. 能力⑤の基本的な生命活動(放射能など)を例示して説明する。
- ⑤ 1. ②と2-2の2. のタンパク質を削除し、核酸を入れる。

2-3 学習方法、学習内容

- ①生物学が基礎となっている応用科学とその有効性や問題点とは何かの須田委員の質問について
再生医療(クローン)、遺伝子治療 E S S細胞についてよいのか悪いのかについては、答えはないが意見交換をさせることは卒業に必要ということを確認し、文脈が繋がらない部分は見直しすることにした。

2-5 ICTを用いた学習環境

クラウド導入によるICT環境構築を提言する。

3. 問題及び課題

- 拠点校による大学連携の教育には人、モノ、金がかかるので、補助金の活用などを提案する。
- ・学びを活性化させる、国際的に通用する学びを行うための国の支援を要望する。
 - ・大学だけでなく、初等中等教育からの基礎教育の必要性、学び直し、FDなどへの国の支援の必要性を要望する。

(2) 到達目標3について

1. 到達度 (1)~(4)を短くまとめる。

2. 授業デザイン

- ・「授業のねらい」の前に、生物学を学ぶことの重要性につながるような「背景」を入れる。
- ・1. 到達度の(4)を背景として入れる。また、文章を以下のように冒頭を追加、修正する。
どのような環境で生活し、どのような分野で活動する場合にも各自の置かれている・・・と修正する。
- ・自分達の学びが社会を変えていくという意識を持たせるような学び。

- ・「授業のねらい」については、短くする。
「例えば・・・」以降は授業シナリオに入れる。
- ・「授業計画」については、他領域との連携を前提とした授業として述べる。
生物中心の授業と他分野との関連性を気づかせる授業の両方を大学で設定する必要性を提案。
科目ではなく、大学生活をどのように構築するか、大学として考える必要性を提案。
大学で訓練して身に付けさせるためにどのように設計させるのか、身近な問題を通した学びの必要性。
学びの到達度の測定方法の提案、特に知識の活用能力をはかるための仕組みとして、ポートフォリオ、大学間や社会への学生の考えの公表などを提案する。
- ・「授業計画及び授業シナリオ」については、グループ討議やディベートのための学生の事前の調べや感じたことなどを書き込むLMSや電子掲示板などのICT活用を入れる。
- ・「ICTを用いた学習方法」については、ネット上に学生が書いた内容のチェック、アドバイス、指導をファシリテータを置いて教員と連携して行う。
- ・「ICTを用いた学習内容」は、観察、記録、企画、予知、検証、考察の学びでICTを活用して例示する。学習方法といっしょにしてもよい。
- ・「ICTを期待される効果」については、観察、検証、考察、予知能力を身に付けられることが期待できる。
- ・「ICTを用いた学習環境」は、LMSなどの学習環境で、学生、教員が使いやすい環境が必要である。また、ソーシャルネットワークなどの活用も入れてみてよい。

3. 授業運営上の問題

生物と関連した他分野との共有を図るため、大学全体として教養と専門の融合性を図るなど、大学のガバナンスが必要である。科目間の連携を図る教員間の交流(FD)、ライブラリーを構築する際の他領域との連携も必要。

したがって、生物学をはじめ他分野を統合的な視点で社会の現象を見極めることができる能力を養うための大学としてのガバナンス発揮の必要性を入れる。

※ カラー資料「生物学と他分野との関係」を資料として、アンケートに添付する。

2. 今後のスケジュールと課題

5月14日：2つのモデル案の修正版を中間まとめとして提出

5月中下旬：生物学分野の教員への意見聴取実施

3. 次回委員会

次回委員会は、6月中旬から下旬にメールで日時を調整の上、決定する。